

奥多摩むかし道

全長約9km

歩行約4時間

0 250 500m

①むかし道南氷川入口-(約1.2km)-②槐木-(約2.7km)-③白髭神社-(約2.7km)-④中山通行止ゲート付近-(約2.4km)-⑤むかし道水根入口

●裏に続きがあります。●この面は【氷川～惣岳溪谷】で、全体の約半分です。

奥多摩むかし道の歴史 *「奥多摩町誌 歴史編」を参照。

◇「奥多摩むかし道」は、奥多摩町氷川地区から小河内地区までの旧青梅街道を巡る歴史の道です。

◇青梅街道が最初に開拓されたのは慶長年間で、青梅と新宿を結ぶ道でした。当時、青梅の上成木周辺にて良質の白土(石灰)が多く産出し、江戸城の改築のために輸送されました。上成木が発点のため、成木街道とも呼ばれました。

◇その後、青梅街道は多摩川に沿い西へと開拓され小河内に達した後、大菩薩峠を越えて甲府に至ったため、江戸時代には甲州裏街道とも呼ばれました。甲州街道と比較すると2里(約8km)短く、多くの庶民に利用されました。

◇現在の青梅街道は明治11年に初めて開通した道で、鴨沢・丹波を経由し柳沢峠を越えて甲州市の塩山を抜け甲府に至るルートになっています。

◇この街道を通り、奥多摩から青梅へと、木炭、白簀、下駄材、山葵なども出荷されました。奥多摩氷川地区から青梅までは約5里の距離があり日帰りが困難であったため、氷川には馬方宿が営まれ繁盛しました。

◇旧青梅街道、つまり「奥多摩むかし道」の路傍には、今でも石碑や塔、祠などが数多く見られ、いにしへの情景がうかがえます。また、そのルート自体は現在においても各集落の人々にはなくてはならない生活道です。

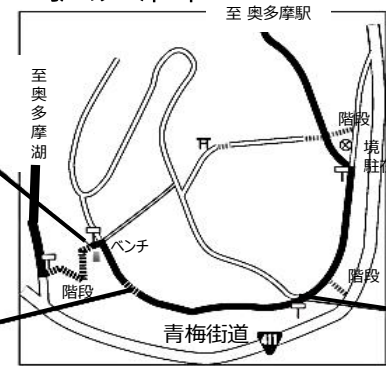
歴史・文化財

- ①奥氷川神社
- ②愛宕神社
- ③羽黒坂・羽黒三田神社
- ④槐木
- ⑤不動の上滝・小中沢橋
- ⑥白髭神社
- ⑦弁慶の腕ぬき岩
- ⑧耳神様
- ⑨いろは楓巨樹
- ⑩惣岳の成田不動尊



惣岳溪谷

拡大図



祭礼行事

①奥氷川神社

やぶさめ祭り(1月第4日曜)
神職や氏子総代が、境内で立って矢を射る「やぶさめ」が行われる。

大氷川の獅子舞

(8月第2日曜とその前日)
奥氷川神社の中心行事として古くから行われている。3匹の獅子が太鼓を叩き舞う。

⑥白髭神社

境の獅子舞(8月16日)
3匹の大きく口を開けた獅子が舞う。獅子頭は江戸時代に作られ、300年以上の歴史がある。



歩行約4時間

4

細おもての獅子頭3匹で舞う。
日原の獅子舞と同系統だが、
より活発な動作をする。